

【重点目標】

- (1) 中高一貫教育校の特長を生かし、学び方や生き方の質を高め、一人一人のよさを引き出し、認め、伸ばすために指導の工夫・改善を図る。
(2) 学校研究の一層の充実を図り、令和の日本型学校教育を実践し、本校が今年度の目標とする生徒像、「自ら進んで学ぶ」「規範と人権」「レジリエンス」、を身に付けさせ、自己実現に向かって日々努力する生徒の育成を目指す。
(3) 生徒の自己実現の醸成の場となるよう、日頃から危機管理の意識を高め、安心・安全な学校づくりを目指す。

重点目標		具体的取組	主担	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1	中高一貫教育校の特長を生かし、学び方や生き方の質を高め、一人一人のよさを引き出し、認め、伸ばすために指導の工夫・改善を図る。	1-1 「特長」 中高一貫教育校の特長の1つである中高間での交流活動を通して、将来について考えたり、新たな目標や課題などを発見したりするなど、自身のキャリアを常に意識した生徒を育成する。	教務 キャリア 各教科	春の対面式・スポーツフェスティバル、夏の紫錦祭などの行事や総合の時間での、意見交換などの生徒間交流、ブリッジ授業などの教科等での交流、部活動での早期入部など、様々な学校生活の場面での交流が増えてきている。	【成果指標】中高の様々な交流活動を通じて、生徒一人一人のキャリアに対する意識が高まっている。	様々な高校生との交流活動は、自分の中学校生活やキャリア設計に役立っていると思う。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、教務、キャリア教育で再検討	生徒対象アンケートにより評価
		1-2 「特長」 中高一貫教育校のメリットの1つである時間のゆとりを活かし、資格取得や各種コンクール等への積極的な参加を促し、自ら学び、創造性を伸ばそうとする生徒を育てる。	各教科	英語科では、年間1回以上の英検受験を推奨しており、英語教室に目標を掲示したり、英語の時間に指導したりするなど、少しでも上の目標が達成できるように取り組んでいる。	【成果指標】英検の取得級に目標をもち、合格を目指して、計画的に学習を進め目標級を取得している。	英検の取得率(4級は中2、3級は中3、準2級は高1レベル) 1年 2年 3年 A 4級50%以上 3級55%以上 準2級40%以上 B 4級45%以上 3級45%以上 準2級30%以上 C 4級40%以上 3級35%以上 準2級20%以上 D 4級40%未満 3級35%未満 準2級20%未満	CまたはDの場合、各教科で再検討	英検の取得率により評価
		1-3 「質を高める」 中高一貫教育校に学ぶ生徒として誇りをもち、気持ちのよい挨拶と礼儀・礼節を大切にするとともに、時間や期限を守ることを通して、社会に通用する人材を育成する。	生徒指導 教務 学習 各教科	生徒、保護者ともに約7割以上が、挨拶の習慣が身に付いていると思っている。しかし、日常生活の中でしっかり挨拶できていない生徒は、まだまだ多い印象である。また、3点固定(起床時刻、学習開始時刻、就寝時刻)と、提出物や課題を期限内に提出する指導をしているが、一部の生徒が守れていない状況が見受けられ、継続的な指導を必要としている。学校内外において、ほとんどの生徒は錦中生としての自覚と誇りを持って行動している。	【成果指標】誰に対しても、大きな声で自分から気持ちのよい挨拶をする習慣が身に付いている。	誰に対しても、自分から挨拶ができています。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、生徒指導で再検討	生徒対象アンケートにより評価
					【成果指標】提出物や課題は、期限を意識して取り組んでいる。	提出物や課題は、期限を守って提出している。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、教務、学習指導、各教科で再検討	生徒対象アンケートにより評価
		1-4 「よさを引き出す」 生徒一人一人のよさを引き出し、認め、伸ばす教育を推進し、「自己有用感の高い生徒」を育てる。	生徒指導 各教科 各担任	「自分にはよいところがある。」に肯定的な回答をする生徒の割合は約7割を超えるが、そう捉えられない生徒もいる。授業の様子だけでなく、普段の生活の様子なども見逃さず、自己肯定感の低い生徒にも声かけできるよう意識して対応していく必要がある。	【努力指標】適切なタイミングで、褒めたり、認めたり、価値付けすることで、生徒の自己有用感を高める指導を行っている。	「自分にはよいところがある。」と感じている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、生徒指導で再検討	生徒対象アンケートにより評価
						生徒のよさを引き出し、認め、伸ばしていくような手立てや工夫など、積極的な生徒指導を行っている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、生徒指導で再検討	教員対象アンケートにより評価

重点目標		具体的取組	主担	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
2	学校研究の一層の充実を図り、令和の日本型学校教育を実践し、本校が今年度の目標とする生徒像、「自ら進んで学ぶ」「規範と人権」「レジリエンス」、を身に付けさせ、自己実現に向かって日々努力する生徒の育成を目指す。	2-1 生徒に授業の大切さを伝えるとともに、「分かる楽しさ」「できる喜び」「学ぶ面白さ」が味わえる授業づくりに努める。	研究 学習 各教科	与えられた課題に対しては粘り強く取り組み姿勢や態度は身に付いてきている。さらに学ぶ意欲を育む授業を目指していく必要がある。	【成果指標】適切な指導内容や課題により、授業への満足度を高めることができている。	教材研究に取り組み、「授業がよくわかる」と回答する生徒を増やしている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、研究、学習指導で再検討	生徒対象アンケートにより評価
		2-2 「令和の日本型学校教育」令和の日本型学校教育の実施に関わる「錦丘授業スタイル」を実践する。	研究 各教科	研究部より「錦丘個別最適な学び」「錦丘リフレクション」に関する提案があり、各教科で実践していく計画である。研究より全体研修や提案授業が行われ、それをもとに各教科で実践を進めている。	【努力指標】単元や授業の中で位置づけられ、深まりのある授業が展開されている。 【成果指標】授業の途中や最後で、効果的に振り返りが行われている。	「錦丘個別最適な学び」を単元や1時間の授業の中で位置づけ、授業を展開することができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満 授業の途中や最後に、それまでの学習を振り返る場面（錦丘リフレクション）が設定されている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、研究で再検討	教員対象アンケートにより評価 生徒対象アンケートにより評価
		2-3 「自ら進んで学ぶ」授業で生徒が、意欲的な姿勢で取り組めるよう指導・工夫する。	研究 各教科	意欲的な様子で取り組む生徒は多い。各教科等で授業や活動のゴールの見通しを持たせ、必要感を持ち活動できるよう工夫していく必要がある。	【努力指標】生徒が課題解決に向かい、進んで取り組む姿が見られる。	自ら進んで課題について考えたり、意見を交流したりするなど、意欲的に学習に取り組んでいる。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、研究で再検討	生徒対象アンケートにより評価
		2-3 「規範と人権」ルールやマナーの大切さを伝えるとともに実生活で実践していけるような生徒を育成する。	生徒指導	思いやりを持つ優しい生徒は多い。個人だけでなく、集団としての意識を高めて行くような指導が必要である。	【成果指標】様々な場面での指導を行うことで、ルールやマナーを大切にすることができている。	学校生活の様々な場面でルールやマナーを守って生活することができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、生徒指導で再検討	生徒対象アンケートにより評価
		2-3 「レジリエンス」(折れない心・しなやかな心)困難なことがあるときに、解決に向け自分ができることを考え、実践に移していけるような生徒を育てる。	研究 学習 各教科 各担任	経験したことや分かっていることに対しては、意欲的に取り組める生徒は多いが、新しいことや苦手なことに対して、自分なりの方法や別の方法を考え実践できるような指導が必要である。	【努力指標】課題や困難に対して、何度も挑戦している姿をみることができる。	難しい課題や困難なことがあったときに、諦めずに取り組んだり、別の方法を考えたりするなど、ねばり強く柔軟に対応することができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、教務で再検討	生徒対象アンケートにより評価
		2-4 「自己実現に向かって日常を過ごす生徒」(キャリア教育)総合的な学習の時間や特活の時間を中心に6年間を見通したキャリア教育を実践し、生徒の視野を広げ将来の夢や目標について考える取組を行う。	総合 キャリア	「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした生徒、「将来の夢や目標に向かって努力している」の項目に肯定的な回答する生徒はともに7割を超える。キャリアの行事に対しては9割の生徒がよい機会と捉えている。今後もキャリア教育の焦点化や体系化を図りながら、中高連携の視点も含め、自らのあり方・生き方を考える機会を充実させていく必要がある。	【成果指標】キャリア学習に関わる様々な取り組みを通して、視野を広げ自分の将来について深く考えるようになっている。	キャリアの行事は、自分の将来を考える機会となっている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満 将来の夢や目標に向かって努力している。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、キャリア教育で再検討	生徒対象アンケートにより評価
3	生徒の自己実現の醸成の場となるよう、日頃から危機管理の意識を高め、安心・安全な学校づくりを目指す。	3-1 「危機管理」防犯、防災教育に関する研修等を通じて、事故・事件、災害等に対して、組織的に教職員が対応できるよう教職員の意識を高める。	生徒指導	早期対応・組織的対応を心がける教員は多い。事後対応や個人での対応とらないよう、コミュニケーションがとりやすい環境づくりに今後も努めていきたい。	【成果指標】問題行動等に対し、早期対応・組織的対応ができている。	問題行動や事故等が起きたとき、早期対応・組織的対応ができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、生徒指導で再検討	教員対象アンケートにより評価
		3-1 生徒指導事務・渉外	生徒指導事務・渉外	中高合同の訓練や防災に関する研修を行っている。緊急対応に備え、定期的に研修等を行い、アンテナを高くし備えたい。	【成果指標】防犯や防災の研修等を通して、意識を高めることができる。	合同避難訓練や研修等を通じて、防災意識が高まったと感じている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、学校防衛で再検討	教員対象アンケートにより評価
		3-2 「安心・安全」望ましい人間関係づくりといじめを見逃さない学校づくりに取り組み、問題があれば組織的に対応する。	特別活動 生徒指導	「学校へ行くのは楽しい」に肯定的な回答をした生徒の割合が9割、教師による組織的な対応についても肯定的評価が100%である。毎月の悩み・迷惑調査や年2回の生活アンケート、組織的な対応で生徒の些細な変化も見逃さない取り組みが継続されている。	【努力指標】望ましい人間関係づくりを目指す特別活動を実践するとともに、日常的な生徒観察や定期的なアンケート等を通していじめを見逃さない学校づくりに取り組んでいる。	「学校が楽しい」と感じる生徒を増やせるとともに、生徒観察や定期的なアンケート等とおして実態把握に努め、小さな変化にも組織的に対応している。 肯定的評価が A100% B95%以上 C90%以上 D90%未満	CまたはDの場合、生徒指導で再検討	教員対象アンケートにより評価